

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第114回放送の概要 (2016年10月22日放送)

パーソナリティ
たろう
(佃 由晃)
なか
(中嶋邦弘)
かりん
(妹尾優香)
あな
(岸本幸恵)



ミキサー
門ちゃん
(門田成延)
会計
小山俊則
相談役
わたかん
(和田幹司)

1. ゲストコーナー(1) 文化放送関西支局長 菊地俊介さん(73 陽会)

FMわいわい金千秋さん、河野真紀さん(82 陽会)、華也ちゃん(小5)、浅原奈緒子さん(69 陽会)

菊地さんは、北区の桜の宮小学校、桜の宮中学校、兵庫高校、甲南大学。兵庫高校では、身長 183cm で 80kg 余り、体格が良くラグビー部に所属し、ポジションはフォワード 2 列目のロック。汗にまみれた高校時代を過ごした。ミキサーの門ちゃんはフォワードの 1 列目。先日亡くなった有名な平尾さんは菊地さんより 4 歳上でとても若かったが、オーラの凄い方であった。成績は当時市内リーグでは A であったが今は C に落ちている。当時は神戸高校と報徳には歯が立たなかったが、神戸高校との定期戦で全校生応援の中で 11 年ぶりに勝ったことが印象深い。門ちゃんの時代は学校の数が少なく、国体予選に出場し、常勝兵庫と言われ、全国大会予選で村野工業に 3 対 3 になり抽選負けしたことが悔しい思いがある。

就職したのは損害保険会社で、東京で社会人生活を送っていた時阪神大震災が発生し、内勤の仕事であったが人手が足りないということで、神戸勤務になった。震災直後であったため、被災者と一緒になって救済活動をした。明石で男 3 人の共同生活を始め、自転車です毎日明石から長田、三宮方面まで通い、その結果 10kg 痩せた。どこに水がある、食べ物があるといった生活情報を集め、手書きのガリ版刷りの情報を配布していた。一番多く通ったのは下山手で、たき火をしながらラジオを聞いて励ましであったことが印象深い。震災時菊地さん達はガリ版刷り情報を配っていたが、よりラジオの方が伝達が早く、強みを認識した。

その後文化放送に入社し 20 年ほど経過した。学生の頃はラジオを聞きながらの勉強やラジオへの投稿が普通に行われ、パーソナリティが読み上げてくれることで一体感を感じさせてくれるメディアとして一世風靡していた。しかし大学時代は音楽をカセットテープなどで聞くのが主流であった。ラジオの強みを認識した体験の大きな出来事は、損保会社時代にラグビーを再開した時、イメージは現役のままであったが体の動きが伴わず、頸椎の大怪我で 4 カ月入院した。最初は集中治療室の鉄板の上で身動きが取れず、

また周りで亡くられる人もおられ、1日がとても長く、眠ることが出来ず気が狂いそうになった。少し良くなると看護師詰所の横に移ることが出来、そこで聴いたラジオの声に現実の世界に戻り、生き返ったような気持ちになった。ラジオの効用を改めて実感した時であった。同僚からの寄せ書きで、元気で帰ってこいよなどの励ましをもらっていたので、ひとしきり働いてからラジオを目指そうと思い、新聞で募集していた文化放送に応募した。

文化放送入社時は黄金時代を過ぎており、既に会社で仕事をしている人は、栄光の時代を忘れられない人が多く、ラジオ離れが進行している時で、民間放送はスポンサーの提供がないと番組が作れず、給料も支払えないので、そのような事についての葛藤があった。国内の放送局は全て、視聴者の減少、スポンサーからの収入減が共通の課題であった。2010年には文化放送も大きく変わり、インターネットラジオrajikoが始まり、若者のラジオ離れを少しでも食い止める対応が始まった。視聴者の数は徐々に上昇し、2014年には、350円/月で全国の放送が聴けるradiko premiumが開始した。また今月からタイムフリーというシェアラジオが新たにサービスを開始する。これは1週間さかのぼって番組を視聴できるもので、再生から3時間は視聴出来、気に入った所でシェアボタンを押すと別の人が聴くことが出来るものである。このような色んな仕掛けが出来るようになってきている。

2. ミュージック:『わすれないよ』 作詞:神戸市立多聞東中学校 41 回生、作曲:PASSION OGURA

7月及び8月の挿入歌でお届けした『東北と神戸をつなぐ歌 充(みち)』のアルバムに含まれている曲の一つである「わすれないよ」をお届けします。この曲は、作詞:神戸市立多聞東中学校 41 回生、作曲は「充」と同じPASSION OGURA(小椋先生は吹奏楽部の顧問)さんによる曲です。7, 8月にお届けした「充」、及び今月お届けする「わすれないよ」は、「オフィス魂(KON) 音楽事務所」の了解を得てお届けしています。



「音楽事務所オフィス魂(KON)」

「わすれないよ」

伝えたい この気持ち 故郷に住むあなたへ

「わすれないよ」この街で 生まれて 生きた あなたを

青い海 見える丘に 暖かな 風が吹く

僕らの 想いを 育てる 「神戸の森」

めげない! にげない! くじけない!

しあわせの種は きっと芽生え 希望の花が咲く

海に響け 僕らの歌 山に響け 僕らの歌

故郷に住む あなたへ 響け 僕らの歌

傷ついた あなたの心に 一粒の種を蒔こう

花が咲くまで 僕らが「仁恕(おもいやり)」という名の

水を蒔こう

辛いとき 手をつないで 笑顔の花を咲かそう

あなたが 笑えば 私も笑えるから

めげない! にげない! くじけない!

僕たちにできること それは 悲しみを一緒に背負うこと

空に響け 僕らの歌 森に響け 僕らの歌

故郷に住む あなたへ 響け 僕らの歌

伝えよう この気持ちを「わすれない」この想いを

天国で見守るあなたへ 響け 僕らの歌

3. ゲストコーナー（2）

（司会）これからはラジオの魅力、特にコミュニティラジオについて、出演者の座談会形式で話を進めたいと思います。初めに菊地さんより、大手ラジオ局がコミュニティラジオに注目する理由について話して頂きます。

（菊地俊介さん）

ラジオは元々ローカルメディアと考えた方がよく、TVのまねごとのように東京からタレントの声を全国発信していた時代は過ぎつつあり、これからはいかに地域に根差した方々の声を手軽に拾うメディアになれるかについて普段から考えていた。そのような観点から、FMYYとゆかりに乾杯の番組が気になり、色々教えてほしい所があると思っていた。

（司会）金千秋さんからFMわいわいの理念についてお話してください。

（金千秋さん）

FMYYはみんなの声を届けることが目的で、ブロードキャスト（放送）ではなく当初から発信と受信をしていた。震災時にあなたを探しています、あなたはどこにいますかと呼びかけ、ここにいますと在日コリアンやベトナム人が、そして被災地にいる色々な人の声を届けるところから始まった。従って放送するためではなく、私ここにいますという放送であったことからわかるように、最初の出だしが違っている。これが変わる事のないベースで、そこにこだわっていると世界のコミュニティラジオの連盟（AMARC）から、それがコミュニティラジオである、コミュニティメディアであると言われた。1996年FMYYがライセンスをもらい、これは役に立つということでコミュニティラジオが一気に増えた。増えはしたがマスメディアの形態を模写していくやり方で作っていったという問題がある。20年も経ったので、沖縄、奄美のような島々では、自分達のための自分達の声の自分達に必要なことに取り組んだ結果、強いコミュニティラジオが出来あがった。

FMYYが地上波のライセンスを返したのは、FMわいわいの発足当初、官民共にこれこそがコミュニティラジオだと言っていたのが、防災に役立つためのコミュニティラジオという制度に法改正され、身動きしづらくなり、また当初から一緒にやり始めた在日外国人が運営に参加できず、排除された事が理由である。その結果インターネット放送に移行したが、ベースとしては、長田の声を世界に届けるというスタンスは変わらず、そしてその時々気づきを加えていくことは全く変わっていない。ネット放送に変わる時も1995、96年の時と同様に、やろうと言って多くのボランティアが集まったのは、20年以上続けてきた財産があったためであると思い、また、「ゆるゆる多分化いとをかし」と表現した神田神父率いる、たかとり救援基地のスピリッツがずっと続いているためと思っている。

4月1日の試験放送から始まったワンコイン番組は、7月16日の本放送以降も続いている。この番組は、ネット放送に変わるとポータルサイトのイメージで、いつでも聴けるライブラリーにしていきたいと思ったが、皆さんから、ラジオは聞こえないとあかんという強い要望があり、ストリーミングという、つけたら聞こえるようにということで4月1日より始めたものである。ワンコイン、500円でも100円でも10円でも子ども達からも徴収し始めると、これがFMYYのスピリッツと感じ、毎週土曜日に放送した。自分の言いたい事ではなく、この場所で色々な人との繋がりをみつける、まちの人との繋がりをみつける場所として、続けていこうということになった。

(菊地俊介さん)

ワンコイン番組はネーミングがいいし、ワンコインを入れるFMYY関係者が作った土偶型の貯金箱もかっこいい。

(司会) 7月16日からインターネットによる本放送が始まり、FMYYで番組(わいわいキッズラジオ、ラジオママネット)を始められた河野真紀さんに、その理由について伺います。

(河野真紀さん)

私は3人の子育て中で、一人でつらい気持ちを抱えながら子育てをしている時期があったり、赤ちゃんと2人で家から外にも出られずしんどい時期があったり、夜も寝れない時期もあったが、そういう時にあなただけでは、私も同じ経験をしてきたよといった情報が入ってきたとしたら、すごく心が満たされたであろうと思った。ラジオママネットは、私だけがしんどいのではないかと考えているお母さんたちに、大丈夫だよと思って頂ける30分を流せたらと思った。今は3回放送したが、続けていきたいと思っている。

わいわいキッズラジオは、大人になるとどんどん自分の偏見、固定観念がある事を悲しくらいに実感している。そのような時に母親からどうしたらよいかという悩みを相談され、子どもである河野さんの答えを大事にしてくれた。今は自分の子ども達に悩みを問かけると、こうしたらどうか、こだわらなくてもいいのでは、気にしすぎだよと言った明快な答えで後押しをしてくれる。一番きれいな答えが子ども達から返ってくる。3人の子ども達で実感してきたので、これはわが子だけではないと思ったので、多くの人に気づいてほしいと思った。子ども達の素直な声を、このFMYYという場所から発信出来るチャンスをもたらした。

(司会) 河野さんがFMYYに関わったのはいつですか。

(河野真紀さん) 2015年3月のゆうかりに乾杯に、華也ちゃんのガールスカウト仲間と一緒にゲスト出演したのがFMYYとの最初の出会いです。

(司会) FMYYを知ってから短期間で番組を始めようと思ったのは、何か魅力を感じたのでしょうか。



ワンコイン用の土偶型貯金箱



わいわいキッズラジオ



ラジオママネット

(河野真紀さん)

発信したい、こんな苦労があるのをもっと知ってほしいと言う思いが前々からあった。溜まりたまったものを以前から持っていた。それを誰に伝えたらいいか、どこに行けば解決できるかを見つけられていなかった。FMYYでは高校の先輩がキラキラ楽しそうにラジオ放送しているのを見て、発言などありのままを話しており、間違っていない、方向性が近いことが見えた。ここは排除されるのではなくウエルカムな雰囲気を感じた。そしてここにずっと関わってみたいと思った。

(司会) キッズラジオは、オープニングで「子供がメインパーソナリティ」と言っているが、小学生の子供達が出来ると考えた根拠は。去年3月に華也ちゃんが、ゆうかりに乾杯に出演した時の感想に、次はガールスカウトがメインでやりたいと書かれていた。

(河野華也ちゃん)

自分でも出来ると思ったし、クラスに目立ちたがりの子がいてこの子なら一緒に出来ると思った。

(河野真紀さん)

去年3月に参加した放送ではメインテーブルは大人で、子供達は後席で殆どしゃべれなかったのが、不満を持っていた。キッズラジオでは、この場所の安心感、そして子供達以外の参加している大人達3人が、子供達を肯定し支援している空気を感じ、何を言っても大丈夫という、自分たちの思いをそのまま伝えてもよいという雰囲気がある。学校の授業でも、3年生からプレゼンも学んでおり、今は意見を発表する機会が提供されている。授業参観を見ていたので、できるのではないかと感じていた。

(金千秋さん)

FMYYでは、これまでに子供がメインパーソナリティを務めたのは、ラジオだけでなく映像でも取り組んできた。小学生がここで育ちながら被災地で絵を描いていたが、5~6年経つと絵を描いたことを殆ど覚えていない。子供から何で絵があるのと聞かれたときに、自分で調べてくるように話した。それを映像にした「壁の秘密」がある。ここでは何を話してもOKというのは、外国人の場合は日本の悪口を言ってもOKという安心感のあるのがFMYYという場所である。発達障害や耳の聞こえない人など、さまざまな違いを持つ人が、この場所ならいつも自分が思っていることが言える、と言われたことがある。だからこの場所を守りたい。そのような場所であり続けるために、皆さんに頑張ってもらいたいと思っている。元々ここはたかとり救援基地の場所であった。面白くないとやっておれないという「ゆるゆる多文化いとかし」のスピリッツを持つこの場所を、教会から提供して頂いていることが大きい。

(司会) 今後のキッズラジオとママネットの方向性について考えていることはありますか。

(河野真紀さん)

FMYYに関わる世代の途中が途切れているように思う。地域ではお爺ちゃんお婆ちゃん世代が地域活動をしており、30~40台の世代が全然いない。継承していくにはどうしたらよいかという共通の悩みがある。キッズとママの提供者である、輝支援センター神戸の母体が神戸市婦人団体協議会で、やはり次の世代に困っている。婦人会は母親の世代で、子供に知的な働きかけや体験をさせてやりたいといった同じ思いがある。時代が変わっても子供にしてやりたいという思い、ママをサポートしたいという思いは同じで共通している。ママが声を上げられる場所が続いていけばいいなと願っている。

(金千秋さん)

華也ちゃんがママになればママネットになりますね。その前に中学生になればキッズからジュニアに名前を変えればいいね。

(菊池俊介さん)

リスナーからインターネットを通じて問い合わせ、意見はありますか。

(河野真紀さん)

地域でパソコン講師としてママに教える仕事をしているが、他のヨガや食育の先生も同じように発信したいという思いがあると聞いている。先日、英語の先生にママネットに来ていただいた。自分と同じ苦労をして困っている人のために多くの人に伝えたいので、私も出演したいという言葉をよく聞く。10月のキッズラジオ放送日のテーマ「男の子と女の子ってちがう？」と、国際ガールズデーの取り組みが一致し、東京のガールスカウト日本連盟とリンクした取り組みになり、ラジオがきっかけで全国的に意識が変わっていく機会になると感じた。

(菊池俊介さん)

それはインターネット放送のお陰ですね。

(金千秋さん)

タイに日本語教師として赴任している人が、インターネットでFMYYの放送を聞いて、商店街や市場の話ばかりと思い、それはどんなところかと関心を持ち、見に来たことがあった。宮城県の巨理町で災害FMに携わっていた人は、スイッチひとつで地域の人声が聴け、懐かしいあの曲、地域限定の情報が聴けるのはものすごく重要と言っていた。しかしそれだけでは局は成り立っていかない苦しみがある。小さな局であれば、CMで支えるのは難しく、皆が町が会員になって支えるしかない。

(河野真紀さん)

FMわいわいのいい番組を、文化放送の枠で扱えないのか。

(菊池俊介さん)

番組編成で考えてくれるといいのですが。国内のコミュニティ局の色々な番組を紹介するような60分枠などが出来ればよいと思う。

(金千秋さん)

韓国では市民に開放したオープンチャンネルがある。

(菊池俊介さん)

今日は刺激と得られるものがありました。ここは居心地がよい。スタジオの雰囲気がよく、放送前からワクワクしていた。掘りごたつに入ってしゃべっている感覚で、温かい雰囲気がある。老若男女色々な人がしゃべれるのがよい。

(金千秋さん)

目の見えない人はラジオを重要視している。スマートフォンで聴けるといっても聴けない。

(司会)

先日のワンコインの番組で眼の見えない人が、TVの音声をよく聞かすが、詳細はHPでと言われても対応が出来ない。そのような人にもわかってもらえるようにするのは難しいが、リスナーには障害を持った方もいることに、思いを馳せておくことは大事である。

(司会) 本日の感想をお願いします。

(浅原奈緒子さん)

自分はラジオを聴くことはあまりないが、義父は視覚障害者で、キーボードを持って自分は神戸のスティビーワンダーと言って演奏に廻っている。その時はラジオを持参し情報を得ているようです。

(河野華也ちゃん)

ラジオは益々好きになった。これからも続けます。

(菊池俊介さん)

居心地がいいというのは、皆が培ってきたことから生まれたものなので、ラジオの原点、自分が大事にしていきたいものをFMYYとからませていきながらやっていきたいと思う。

(金千秋さん)

若いころはラジオを全く聴いていなかった。だから放送ではなく、ここにこんなに困った人がいるので伝えたいというところから始まり、ラジオという既成概念がなかったのが普通に出来た。既成概念を取り払い、誰かのことを想像することのために、マスメディアもミドルもコミュニティも、色んな人たちが色んなやり方で伝え合えるネットワークが出来れば良いと思う。勿論NHKも含めて、各地のアナウンサーが言うのではなく、その場所の人にしゃべってもらえるとありがたい。

(司会) 有意義な座談会になったと思います。ありがとうございます。

4. 地域瓦版

- ・10月23日、東日本大震災チャリティ、第6回2000人ギター弾き語り新長田鉄人広場で開催されます。当日の募金でギター、ウクレレを購入し宮城県気仙沼市の子供達に届けます。
- ・10月29日～11月6日、長田区南部の下町エリアで下町アセンブリーが開催されます。2017年開催イベントのプレイベントです。
- ・10月30日、伊藤ルミピアノリサイタルが灘区民ホールで開催されます。
- ・11月6日、神戸開港150年のプレイベント、輝く兵庫祭りが(市場祭り、兵庫運河祭り)開催されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukarihyogo.jp/>